

真の人間回復（マルコ 7:31-37）

最近、心痛む悲しいニュースをよく耳にすることがあります。もちろん、今だけのことではありません。昔からずっとありましたけれども、最近それがより頻繁に、またひどい形で表れているのではないかと思います。そのニュースの主人公になるような人々は、それぞれつらい、苦しい自分なりの理由などがあつたに違いありません。しかし、本当はそのような心痛む事件、さまざまな出来事は、人間喪失による結果になります。その悲しいニュースの主人公たちにあるさまざまな理由、そうせざるを得ないさまざまな訳というのは、実は真の人間回復の機会だったわけです。しかし、見事にサタンに騙されてサタンにやられた結果、そういう道を行くことになってしまったということを礼拝を捧げている私たちは忘れてはいけません。だからクリスチャンの私たちは、決してそのようにサタンに騙されることなく、むしろサタンに騙されて真の人間回復の機会を棒に振るってしまうたましいを助ける思いで祈っていかないといけないと思います。そのためにまず私たちが徹底的に心に覚えなないといけないメッセージです。

1. 苦しみと病は真の人間回復の神様の時刻表である。

第一、人間の苦しみと病は、まことの人間回復のための神様の時刻表であるということを徹底的に胸に刻みましょう。

1) 真の人間とは？

真の人間というのは、どういうことなのでしょう。それは創造の神様が私たち人間を造られるときに、神のかたちに造られました。つまり、他の被造物とは区別して、神様がともにおられる存在、それで神様と交わりができる存在、神様の祝福を味わうことができる唯一の被造物として造られたものが人間です。その神様の祝福を味わうことで、神の栄光を表すことが人間の生きる理由であり、また存在の理由でもあります。これこそが真の人間というものなのです。神の祝福を味わい、神の栄光を表すということの中に人間の喜びがあり、幸せがあり、真の成功がそこにあるように造られたものなのです。

2) 祝福の問いかけ

これこそが真の人間なのに、実際はさまざまな苦しみと病を患うことになり、そのときに人間は素直に祝福の問いかけをするチャンスなのです。真の人間を失ってしまった結果、苦しみと病を患うことになりました。そこで人間は立ち止まって、人間とは一体何なのか、どういう存在なのか、今苦しんで、病を患っているこの現状を見ながら、これが人間なのか、これが果たして人生そのものなのかと素直に真実に問いかける機会が許されたことなのです。多くの人が病気を患ったあと、健康の大事さに気づいたと口を揃えて言います。もちろん気持ちは充分わかりますが、それが本当に正解なのでしょう。人間が病気を患って病を患ったあと、このように気づくというのが正解だと思います。人間とは本当に肉体だけのものなのか。肉体だけであれば、この一つの病気でもう終わりではないのか。本当に肉体だけのものであれば、人間とはなんとむなしい存在なのか。これに気づくのが正解なのです。健康の大事さに気づくということが正解ではないのに、ほとんどの人がそちらの方に走ってしまいます。だから祝福の問いかけの真実な時間が許されているのに、そこを皆逃してしまいます。

3) 福音が聞こえる

人間とは一体何なのか。なぜこんなに苦しい思いをするのか。なぜこんなに嫌なことがあるのか。これが人間なのか。これだけなのかと素直に問いかけたときに、やっと福音が聞こえて来るようになります。そのときに「そうだよ。だから人間はお金や健康、また愛情がテーマではなくて、人間は真の神様に会わなければいけません。人間は神様と一緒にじゃないといけません」という福音が聞こえて来るようになります。そして、「神様と一緒にになり、神様と出会う道はキリストだけなんだよ。キリストがその道であり、キリストだけがその道です」という福音が聞こえて来るようになります。

4) キリストを求めて

それで人生において初めてキリストを求めて、キリストに向かうようになります。人間の苦しみと病

は、このようにして真の人間回復の神様の時刻表を迎えることとなります。そのときにキリストを求め、キリストに向かっていたたましいを真の人間として回復される仕事をキリストがなさるわけです。今日の聖書の箇所はその内容の一つです。イエス様が耳が聞こえなくて、口がきけない人を連れてきたときに、その人を癒やされることでその人の真の人間回復の祝福を与えることになりました。この内容が今日の聖書の箇所です。イエス様はどのようにしてキリストを求めてきたたましいを人間回復の祝福に預けるようにされるのでしょうか。

2. キリストはご自分を犠牲を元に真の人間回復をなさる。

それが二番目のメッセージです。キリストはご自分の犠牲を根拠にして真の人間回復をなさるお方です。これをいわば癒しと言います。

1) ご自分を犠牲のいけにえに-イザヤ 53:4-6、ヘブル 2:18、ピリピ 2:6-8、Iヨハネ 3:8、ヘブル 10:14、ヨハネ 19:30

もう一度言います。キリストはご自分の犠牲を元にして真の人間回復をなさるお方です。それで耳が聞こえない、口がきけない人を別に連れて行って、両指をその人の耳に入れて、またその人の舌の方にイエス様のつばをつけるという行為を通してその人を治して回復させました。それがイエス様ご自身を犠牲にしてその人を回復し、その人を癒されるという意味なのです。聖書にはそのことが預言されているし、旧約聖書のすべての礼拝の内容はキリストの犠牲によって人々が回復されて癒されるという啓示です。イザヤ書 53:4-6、その旧約のすべての内容を代表して分かりやすく書かれている内容です。「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた」。キリストが犠牲になることで私たちは癒され、私たちは回復できるようになるということが預言されています。そのことがヘブル 2:18にもこのように記されています。「主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることができになるのです」。イエス様の犠牲を根拠に、その犠牲を担保にして私たちが回復され、また癒されるということが明確に記されています。そして、ピリピ 2:6-8にも「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました」。このようなキリスト、罪のない神の御子の犠牲を根拠にして、私たちが真の人間として回復され癒されるということが聖書には記されています。このようにキリストご自身が犠牲になることで、Iヨハネ 3:8、私たちが捕らえていた悪魔のしわざを完全に打ち壊すことができたわけです。そして、ヘブル 10:14にも「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです」。私たちのすべての罪をきよめられて、永遠に全うされることになりました。何によってでしょうか。罪のないキリストご自身の犠牲によって。あなたは治るようと仰ることで治すこともできます。創造の神様ですから。しかし、罪ある人間の癒し、人間の回復はそうするわけにはいきません。罪のないキリストの犠牲がなければ回復できない問題であり、癒されない問題です。そんなにたやすく神様だから治りなさいとおっしゃれば治るんだろうと置いてはいけません。人の回復、人間の癒しというものは、罪のないキリストの犠牲がなければ、その犠牲を担保にしてこそなされる神の祝福であり神の愛です。そのようにキリストが犠牲のいけにえになることで、十字架の上でヨハネ 19:30、すべてを「完了した」、そのようにおっしゃいました。

2) ご自分を差し上げて(いのち) ガラテヤ 2:20、Iコリント 3:16、IIコリント 5:17

犠牲を払うことによって、すべてを完了なさった、そのキリストご自身を罪人の私たちに差し上げることで、私たちが回復して私たちを変えられて、また癒されるということをぜひ覚えてください。両耳に指を入れて、その人の舌にイエス様のつばをつけたということは、ご自分の犠牲を表すと同時に、イエス様ご自身をあげるということなのです。それをいのちと言います。肉のことしか知らない人間にはどういふ話なのか全くさっぱり分からないでしょうけれども、これこそが真の人間の回復の奥義であり、真の癒しの秘密です。ご自分を捧げることで私たちが回復され、また癒されるということをぜひ覚えま

しょう。なので聖書には、ガラテヤ 2:20、私たちはキリストとともに十字架で死んで、キリストが私の内側に生きることになりました。イエス様ご自身、キリストご自身を私たちにあげることで、差し出すことで私たちを回復され癒されます。すごいお話を聞いて、またすごく慰められるから、すごい愛情があるから人間が変えられる、あるいは癒されるわけではありません。このキリストの犠牲によってすべてを完了なさったキリストご自身が私たちにいのちとして与えられること、そこに真の人間の回復があることを覚えましょう。だから聖書には（Ⅰコリント 3:16）あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのか。神様が私たちの内側に入って来られることで私たちは変わります。回復されます。真の神のかたちとして造り変えられることになります。それでⅡコリント 5:17にはこのように宣言されています。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」。これこそが真の人間の回復です。イエス様を信じて受け入れたにもかかわらず、変わらない部分がたくさんあったり、苦しみや問題がそのまま残っていて、それで葛藤を感じる信者がいるかもしれません。そういうことがどうであれ、キリスト・イエスを信じて受け入れたことでキリストがその人の内側に住まわれることで、その人はがらりと変わります。その人が意識して分かって信じるか信じないかの問題が残っているだけであって、完璧に回復されます。キリストがその人の内側に入ってこられたのに、まだ回復できていないということはありません。神の神殿、新しい被造物と呼ばれるものに回復できているということをぜひ覚えましょう。これが真の人間の回復、真の癒しの奥義です。もう一度言います。キリストはご自分の犠牲を根拠に担保にして、私たちを真の人間として回復され癒されるお方であるということ覚えましょう。

3) 根本からの回復、全ての回復 Ⅱコリント 4:7、ローマ 8:39、37、28

だからキリストによる回復、その癒しというものは根本からの回復であり、根本からの回復はすべての回復という意味なのです。どのように解釈されるかと言いますと、パウロはこのように言いました。Ⅱコリント 4:7「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです」。私たちを見ると、環境や自分自身だけを見たときには、土の器のように見えるしかありませんが、宝をその中に入れていたので、「それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです」。だから四方八方から苦しめられても窮することなく、倒されても滅びることがない、そういう人間として回復できるようになります。ローマ 8:39、誰もこのキリストを奪うことができないので、この人間回復は永遠に変わることなく続きます。ローマ 8:37、死、苦しみ、患難、迫害、裸、危機、危険、どんなことがあっても圧倒的に勝利できる人間として回復できるわけです。ローマ 8:28、それだけではなくて良いこと、悪いこと、それは私たちの基準で見たときの評価に過ぎないもので、クリスチャン、キリストを受け入れることで回復できた人間の人生というのは、すべてを働かせて益となる、そのような人生、そのような人間として回復できているということが聖書の教えであり、宣言なのです。キリストによる真の人間の回復、真の癒しのことを軽く思っただけではいけません。また、制限してもいけません。根本的な回復であると同時に、すべての回復なのです。つまり、何があっても何一つ問題にならない、そのような人間としてキリストは十字架で死なれて、罪人の私たちを造り変えられて回復されました。それが大切なポイントなのです。なぜそのように回復されたのかと言いますと、これが最後のメッセージです。

3. 真の人間回復により、閉ざされていた祝福の人生が開ける。

真の人間回復によって、今まで閉ざされていた祝福の人生が開けるようになるからです。私たちがキリストの犠牲によって真の人間として回復できたのが間違いなければ、この祝福が始まります。今までは閉ざされていたその祝福の人生が開けるようになります。イエス様は、耳が聞こえない、口がきけない人に向かって天を見上げて祈りつつ「エバタ」とおっしゃいました。すなわち「開け」ということです。その瞬間、耳が開かれて口が開かれることになりました。単に口が開かれて喋れるようになったという単純な意味ではありません。今まで罪によって目に見えない暗闇の勢力によって閉ざされていたところが砕かれて、祝福の人生が開けるようになったという意味なのです。これが真の人間の回復であり、真の癒しという祝福の意味です。

1) 3、6、11>1、3、8/言い訳、不信仰>御座(3.9.3)、衣食住>神の国と義/イスラエル>地の果て(237)
今まで自分中心、肉が中心であり、この世が中心で閉ざされていたものが開けて、Only キリスト、Only

神の国、Only 聖霊という契約がその人の中心となるようになります。今までは創世記 3 章、6 章、11 章の力に閉じ込められて、それを見ることができませんでした。しかし、キリストによって真の人間を回復すると同時に「エパタ」。自分、肉、この世を中心にしていて、その中心で閉ざされていたわけです。そこが開けて Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊という契約がその人の中心となります。今までは暗闇の力に制せられて言い訳、不信仰に走っていて、その言い訳と不信仰により閉ざされていたものが砕かれ、そこが開けて御座の祝福が見えて来るようになり、3.9.3 を自分の祝福として取り入れて求めることとなります。今までは閉ざされていました。だから言い訳と不信仰しかありません。それによって閉ざされていたものが開けて、三位一体の神様の御座の祝福を見あげて求めることができるようになります。今までは何を食べるか、何を飲むか、何を着るかがテーマであり、それが祈りの課題でした。そのテーマで閉ざされていたものが開けて、神の国と神の義を求めることがテーマになり、それが祈りになります。その祈りが開けるようになります。今までは衣食住の祈りで閉ざされていました。見ることもできませんでした。だからクリスチャンなのに答えがないまま、さまよい続けるしかありませんでした。そして、イスラエルは選民だという選民意識で閉ざされていたところが開けて、地の果てまで見渡すことになり、237 国を心に抱く者になるわけです。開かないと教会に 30 年通っていてもずっと閉ざされているままなのです。自分、自分、自分しか分かりません、怒るのも自分。嬉しいのも全部自分。

2) 心配、不平、不満>讃美と感謝 比較、妬み、憎しみ>哀れみ、赦し、愛

そして、真の人間が回復できたことで、今まで心配、思い煩い、不平不満で閉ざされていたところが開けて、その口から讃美と感謝を捧げることになります。今までは讃美、感謝などは夢にも考えることができませんでした。閉ざされていたので。心配で閉ざされています。不平不満で。親に対しての不平、学校に対して、友だちに対して、奥さんに、旦那さんに対しての不平不満などで閉ざされていて、讃美などは考えられません。そこに「エパタ」の祝福が臨まれて、讃美と感謝がその口から捧げられる者になります。他人と比べて比較したり、妬み、また憎しみなどで閉ざされていたところが崩れて開けて、人を見るときに哀れむ気持ち、赦す思い、愛の思いをもって人を見ることができるようになります。それが開けるようになります。

3) この世への欲、執着、未練>宣教地、旅人、管理人

今までこの世に対する欲、執着、未練などで閉ざされていたそこが開けて、この世を宣教地として見て、この世に執着も未練などもない旅人として、この世を管理人として生きる生涯が開かれるようになります。これこそがエパタの祝福なのです。キリストは私たちを根本から回復してすべてを回復なさいます。それでクリスチャンの私たちに「エパタ」と宣言されました。そのエパタの祝福を与えられ、苦しんでさまよって、サタンにやられているたましいを助ける証人として立てようとしていらっしやることを改めて覚えましょう。

人間の苦しみと病を人間回復の神の時刻表として受け止めてキリストに向かいましょう。余計なことを考えないで、今まで通りの思いに走らないで、悪魔サタンの騙しごとには騙されることなく、そして、キリストにある真の人間回復を確認して、自分はそのように回復できたと確信しましょう。今どんな条件、どういう状況であろうが、キリストの犠牲を無駄にしないように。キリストの十字架を馬鹿にしないように。血を流されて、からだを引き裂かれて、死を味わってハデスの方に下りていったキリストがよみがえられて、すべてを完了したと勝利を宣言なさったキリストが、皆さんの苦しみと病をすべて経験済みのキリストが皆さんに与えられます。キリストは言葉で癒されなさいとおっしゃる方ではなくて、すべてを成し遂げられたご自身を差し上げる方なのです。いのちを与える方なのです。勘違いしないように。何かを分かった、分かってないという知識の問題ではありません。だからへブルの手紙には信仰の創始者であり、完成者であるイエス・キリストから目を離さないようにと勧められているわけです。そのキリストにある真の人間回復を確認して、自分がそういうものだ確信しましょう。それでその確信に立って、大胆にキリストの御名によってエパタの主の働きが私になされるように祈りましょう。閉ざされていたすべてが砕かれて、神の祝福の新しい人生が開けるように祈りましょう。私たちがキリストの犠牲を元に回復できている神の子どもに間違いなければ、神の御座が臨まれている神の神殿であることが間違いなければ、皆さんがどんなに土の器のような格好をしていてもエパタの祝福が約束

されています。エパタの祝福は皆さんのものです。迷うことなく躊躇せずにエパタの祝福を祈りましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。キリストの犠牲によりそのキリストがいのちとして私たちに与えられることで、私は真の人間として回復できて、神の御座が臨まれ、三位一体の神様がともにおられる神の神殿であることを覚えて主の御名をほめたたえます。少しも疑わずにこの真の人間の回復、この癒しを感謝して、エパタの祝福を祈ることができ、私は本当に回復できて癒されたということを信じて、自分に対する考えを変えることができるようにひとりひとりをかえりみてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン